



令和6年能登半島地震 復興支援PR事業

【事業の内容】

元日の能登半島地震で被災した小規模事業者への緊急支援と、首都圏で“#もう来ていいよ能登”を発信するため、「のと5LOM（羽咋JC主幹）」が共同で千葉県の幕張メッセで開催される『カーボンニュートラルを考える2024 SATOYAMA & SATOUMI movement※』にブースを出展。（※モーニング娘。を輩出した芸能事務所の主催イベント）商品の代理販売、及び、イベントステージ上で「能登の現状と能登の里山里海の素晴らしさ、首都圏の方々に来て頂きたい！」とPRする。同時に、出展できない被災事業者の食や宿情報、能登の魅力、支援の方法等を詰め込んだ「のと復興応援冊子”Hello！のとノート”」を創刊しブースで販売する。経費を除く収益を被災地復興に役立てる。

【事業の効果】

本事業は、発災後「のと5LOM」（珠洲・輪島・のと・七尾・羽咋）が緊急連携して行った。株式会社アップフロントクリエイト様のご協力のもと、2日間で4万人が来場するBIGイベントへの出展が叶い、準備期間が限られる中、数にして1500の商品を複数の被災事業者様からお借りし代理販売。当日は現役ハロプロメンバーの協力もあり完売することができた。また、被災地の全国報道が減る中、ステージでのPRも叶い、来場者に被災地応援の方法“行っても大丈夫な能登”の情報も伝えられた。現地参加した、のと5LOMのメンバー全員が、本事業に対しての手応えを感じ、“再び能登を盛り上げる”活力を得た。今回の芸能事務所との繋がりを、能登の復興イベントに繋げることを現在取り組み中。

今だからこそ、知って欲しい
石川県・能登の魅力

能登半島を盛り上げる
石川県の
再盛企画²⁴



能登ブース風景



メインステージPR風景

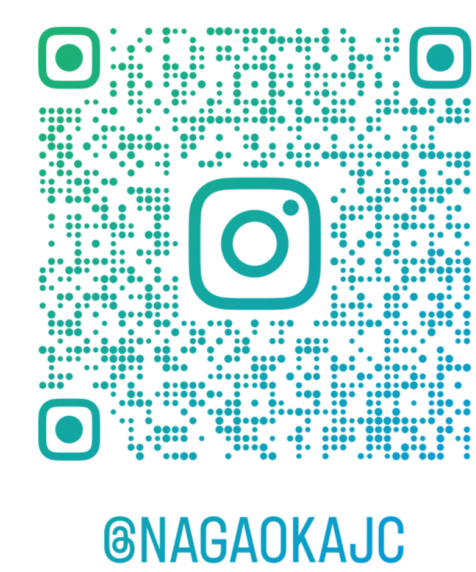


元モーニング娘。
保田圭さんも販売応援を
してくださいました！！



緊急創刊
復興応援冊子
「Hello！のとノート」

販売応援してくださった
現役ハロプロメンバー
“つばきファクトリー”の方々



@NAGAOKAJC



Instagram・HP

市民協働推進事業～BORDERLESS～

【事業内容】

長岡市では活躍する市民団体が多く存在していますが、その多くが「人、場所、資金」の不足により、3年以内に活動を停滞させます。個々で活動している団体が出逢い、手と手を取り合い協力すれば、その活動規模は大きくなり、伝わる人が増え、活躍の場が増える。見てもらう機会が増えれば、共感する仲間や、支援者も増える…そして、彼らの活動規模が大きくなり、継続しやすくなることは、長岡市の活性化に繋がります。私たちはこの、「市民協働推進事業～BORDERLESS～」を通年事業とし、「協働の輪」を創ることを目的とし1月、2月の「協働」のサンプルとなる事業から始め、それにより私たち青年会議所自信が協働の力に確信を得ました。さらに市民団体同士の交流会を3月、4月、6月の3回行い、その都度参加者にグループラインに入って頂き、彼らの横の繋がりを作る出逢いの場を創出しました。そして7月にはすでに長岡を引っ張っている団体との、縦の繋がりを作り、8月は団体たちと共に、「長岡の活性化」を目的とし力を合わせ、10月にはそれぞれの特技を持ち寄って、一つのブースを彼らに任せる、「協働の自走」を行いました。11月は、私たちがいなくても、来年以降も続く関係を築く決起となる「宴」と称した飲み会を開催、12月は、この1年で起きた、協働を伝える動画を作成し、市役所やSNSにて上映、各団体と拡散協力し、多くの市民に伝えました。

【事業の効果】

- ・総数55団体に事業参加いただき、多様な団体の交流を促進することが出来ました。
- ・当事業をきっかけにすでに多くの団体同士の協働（コラボ）が生まれており、協働の輪を作ることが出来ました。現在もそれぞれのイベントに出店し合ったり助け合いが生まれ続けております。
- ・大きな団体にスカウトされ、長岡まつりや大きな会での余興を依頼されるなど一つ上のステージで活動できるようになった団体もありました。
- ・団体を繋げるために作ったLINEグループは、第3回までで61名だったものが、最後の交流会で13人増え74名となりました。

現在、この繋がりや2024年にも引き継がれ、各イベントでの助け合いや、コラボイベントが行われており、長岡青年会議所の今年の事業に関わる団体も多くいます。

1月・2月 市民協働の試験的実践



3月・4月・6月 横を繋げる団体交流会



7月 縦を繋げる団体PR&審査をする例会



8月 長岡の活性化という同じ目的を持ち、団体と力を合わせる、子ども神輿と大人神輿



長岡まつり 長岡の慰霊と復興を学ぶこども神輿



10月 特技を持ち寄って生み出す、市民協働の実践

11月 来年以降も続く市民協働を作る「宴」
12月 市民協働を市民に伝える動画の拡散





災害から1年 笑顔のつながりが創る復興と防災力

IGAONAGAMI

【事業の内容】

6つのテーマのブースを設け、来場者を楽しませ、防災意識の向上を図り、感謝を伝える集客イベントを開催しました。

昼の部では、ステージを活用した復興セレモニーのほか、被災地域の飲食店から出店していただき感謝を届ける飲食ブース、災害からの「教訓」を学び次世代に「伝える」ための防災ブース、被災した農家の野菜販売、被災家庭への生活必需品などの提供販売による地域との「架け橋」となる物販ブース等を実施しました。

夜の部では、竹灯籠や「希望の花火」打ち上げで被災地域の方の心の支援を行いました。事業の実施に当たっては、クラウドファンディングから設営まで、NBC共創のLOM支援委員会をはじめ多くの関係団体の多大なるご協力により事業完遂できました。

【事業の効果】

2022年8月の新潟県北部豪雨水害により疲弊した地域を元気づけ、被災事業者の支援を行い、災害時に支援してくれた方へ感謝を伝え、災害の風化を抑制する等多角的な効果を得られた。来場者も当初600名の想定に対し、1500名以上の方にご来訪いただいた。また、来場者アンケート「災害の備えや危機感の大切さを知れた」86%、出店者アンケート「災害の備えや危機感の大切さを知れた」95%の回答をいただき、目的をであった昨年助けていただいた方へ感謝を伝えること、もしもの災害の備えや危機感の大切さを知ってもらい次の世代へ伝えていくことを達成できた。

